

## 授業（英語）の中で教養の芽をどのように育てるか

片 桐 哲 郎

### How should we nurture the young buds of students' culture during (English) class ?

Tetsuro Katagiri

Talking of English class, it is natural that we should teach students English. We should teach them, particularly the four skills of English, that is, how to hear, speak, read and write. As for me in class it is not good enough that we teachers just give knowledge and language skills to students.

Class should include the following four ranges, (1) knowledge and skills in English, (2) basic learning attitudes (3) ability to express oneself, (4) culture; how to live, wide knowledge, orientation to the world, etc.

It matters how well we should organize the four ranges in English classes. Here I would like to present you some procedures of my daily English class.

In conclusion, I would like to teach students English, expecting that some students say, "I came to understand English better." or "I like English much more." From now on, I will continue to teach English with affection to students under the motto of "All for students" and "Student-centered education".

#### 1. はじめに

「人を見て法を説け」という言葉がある。どんな高僧の説法も聴衆の特徴や状況に応じて行われないと効果が薄いという意味である。どんな名講義も学生が傾聴しなければ意味がないと言えよう。教育はまず、学生にどれだけよい影響を与えたかが問題である。

学生の立場から言えば、学園生活、とりわけ、授業からどれだけの教育内容が学習できたか、また、どれだけの教育的感化を受けたかが重要である。学生は、わかる授業、興味ある授業を熱望している。したがって、私たちは、学生の心身の発達や知的能力を考慮して、興味ある、有意義な授業を進めなければならない。

英語の能力について言えば、本学の学生の語学力は千差万別である。そこで、このような学生に、高い志と身近な目標を持たせ、興味・関心を喚起し、英語の基礎基本を効

率的に学習させることが課題である。特に、英語の基礎基本については、「大事なところは何度でも繰り返して」をモットーに徹底して指導する必要がある。

一方、英語教育も学生の人間教育の一環として行われる科目であるから、英語教育を通して、語学に必要な幅広い教養（人文科学，社会科学，自然科学）と学習に先立つ基本的な学習態度・習慣（出席，予習復習，宿題，返事，約束，発表，読書，図書館利用，言語活動等）の養成が肝要であるとする。

教養とは、「学問，幅広い知識，精神の修養などを通して得られる創造的活力や心の豊かさ，物事に対する理解力。」（大辞泉）といえるが，人それぞれに教養の内容や形態は異なってくるものと思う。

その意味で，上述の事柄は，学生の教養を広げ，深化させる基盤であり，それ自体が教養の一部となっているとはいえないだろうか。

## 2. 現 状

- |             |                            |
|-------------|----------------------------|
| (1)科目名      | 総合英語，時事英語，実務英語，英語会話        |
| (2)クラス規模    | 20～40人                     |
| (3)教材       | 指定テキスト及び <u>自作プリント</u>     |
| (4)英語の能力    | 中学卒業程度から高校2年程度             |
| (5)基本的な学習態度 | 辞書の引き方，英語の音読，学習の仕方等が不十分    |
| (6)基本的生活習慣  | <u>欠席や遅刻の多い学生</u> ，注意力も不足  |
| (7)一般的な性格   | <u>素直な性格</u> ，授業妨害なし，指示に従順 |
| (8)学習意欲等    | <u>英語の必要性自覚，向上心多少</u>      |

## 3. 私の授業の4つの柱と実践

- (1) 英語の指導（英語の基礎基本の習得，興味・関心の喚起，英語学習の方法の指導）
  - ア. ノート，辞書，テキストの携帯(英語の学習態度)(資料1参照)
  - イ. 音読の励行(テープレコーダ，コーラスリーディング)
  - ウ. 英語構文の仕組みの理解（英語の文型の暗誦，基本文型，機能的文法の活用）
  - エ. 日常英語会話（1），日常英語会話（2）の音声指導と実習
  - オ. 英語学習の楽しさ(英字新聞のトピックを英語で読む楽しさ，日常会話のイントネーションの面白さ)
- (2) 学習態度の指導（基本的な学習態度の定着）
  - ア. 欠席や遅刻の防止(資料1参照)
  - イ. 講義は，顔を上げて「目で聞く」こと
  - ウ. 言語や行動の明確化，基本動作「はい」「ありがとうございます」「すみません」
  - エ. 自発的，独創的発言の奨励やボランティア的行為

(3) 発表力の指導（発表の機会を多く与える）＜評価対象＞

- ア. 主として座席順位に音読，和訳，文法事項など順次当てていく。
- イ. 理解できたかのチェックを無作為に当てる。（注意力の落ちている学生に優先）
- ウ. 建設的な意見やアイディアは特に歓迎し，評価する。
- エ. 質問の解答として，多少不適當でもその特異性や発想の飛躍を褒める。学生の意見を決してくささない。
- オ. 自由研究の発表の機会を持つ。自由なテーマで3分以上発表する。（資料1参照）

(4) 人生・教養の指導（人生の生き方の暗示，教師の蓄積された人生経験の開示）

- ア. 先輩としての人生教訓の伝授（教員がそのモデル）
- イ. 一般教養（研究・学習の楽しさ，好奇心や疑問の大切さ，意思伝達，独創性の大切さ）
- ウ. 実社会へのオリエンテーション（明朗な返事や挨拶，言語明晰，コミュニケーション集中力，忍耐力，社会への旅たち，希望と不安，厳しさと楽しみ）

4. 英語の指導上の留意事項

A. 英語の指導

- (1) 「英語を教える」から「英語で教える」へ。教科指導と生活指導。（英語指導と人格育成）
- (2) Minimum essentialsを限定し習得させる。辞書があれば，何とか英文の意味が取れる能力（英語の仕組みの理解）の指導。
- (3) 英語の4技能(listening, speaking, reading, writing)のバランスの取れた指導。特に reading に重点。
- (4) 学期の初めの授業に，「TEACHING PHYLOSOPHY」（資料1）を配布し，一年間の英語の指導方針と評価法および期待される成果を述べ，学生の理解とコンセンサスを十分に得る。

B. 学習態度の指導（学習の土台作り）

- (1) カウンセリングマインドで対話に努める。英語の不得意な学生には特にやさしく，しかし，甘やかすのではない。
- (2) 健常の学生は，心身共に厳しく鍛える必要がある。「心豊かで，たくましい青少年」，「生きる力」の育成（学習指導要領，文部科学省）
- (3) 指導上の約束は年間を通して実行する。実行できないことは言わない。指示したことは最後まで徹底する。
- (4) 座席は，前から詰めさせ，5列目までには入れる。（人数次第）

C. 英語の基礎基本とは何か。

- (1) 英語が必要になった時，いつでも学習ができる能力（4技能のバランス）

- (2) 実用英語検定3級程度の英会話の習得 (音読, ストレス, イントネーション)
- (3) 簡単な文法事項の習得 (5文型, Be動詞, 一般動詞, 時制, 進行形, 不定詞, 動名詞, 分詞, 関係代名詞, 関係副詞, It～to構文等)
- (4) 辞書さえあれば何とか意味が取れる能力 (インターネット英語, 専門原書, 英字新聞等の講読)

参考: 著書「すぐわかる英語のポイント110」からの抜粋プリント教材活用=中核文法と周辺文法, 機能語の活用

## 5. 期待される成果

### A. 英語の指導

- (1) 5文型は例文とともに暗誦するので, 英語の語順が頭に残る。(掛け算の九九と同基本的なことは繰り返し指導する)
- (2) 辞書や教科書を忘れる学生はほとんどいない。
- (3) 辞書があれば何とか意味が取れるという自信がつく。(主たる学習目標の一つ, 辞書の引き方, 学び方の学習)
- (4) 音読の効果は, 声を出す態度から始めるが, まだ効果があまり上がっていない。工夫が必要。(日常英語会話は効果的で, 学生は興味を示す)
- (5) 英語への嫌悪感がかなり払拭している。英語が好きになってきた学生もかなりいる。

### B. 学習態度の指導

- (1) 授業中は姿勢を正して, 目で講義を聞く。(寝ていたり, 遊んでいる学生はいない)
- (2) 欠席や遅刻の歯止めに効果が期待できる。
- (3) 「はい」という大きな返事と挙手の励行 (ときどき理解度のチェックに挙手活用)
- (4) 問題の正解や優れた質問, 提案, 意見, アイディア等を発表する。(積極性が出る一人平均年5回)
- (5) 「+1」の学生には, 授業終了後, 授業の感想を一言言わせる。(先生と話す機会, 日本語の表現力の養成, 学生は好意的に対応)

### C. 人生・教養指導

- (1) 教室外でも, 先生に心から挨拶ができる学生が増加している。(学生の笑顔, 意思伝達の窓)
- (2) 何を専攻しようと, 哲学, 文学, 人生観及び政治学, 経済学, 法学及び生物学, 物理学, 化学, 心理学, 天文学等の幅広い知識を持つことが大切だと考えるようになる。
- (3) 予告された定期試験や小テストで, 「やる時はやる」という集中力と忍耐力が身についてくる。

## 6. おわりに

毎日の実際の授業を振り返ると、理想と現実の狭間で日々反省しているところである。ただ、学生が「英語が分かるようになった」とか「英語が好きになってきた」とかの感想ができるだけ多くの学生から聞けるように、今後とも授業の研究・工夫に努めていきたい。また、今後とも、常に愛情をもって学生に接し、All for studentsや Student-centered education の精神で授業を進めていきたいと思う。

### <資料 1>

## TEACHING PHILOSOPHY

(Fukui University of Technology)

T. KATAGIRI

### 1. My Goals for this English Class are that:

- (1) You can read English aloud.
- (2) You can understand English by using an English-Japanese dictionary.
- (3) You will attain the 4 skills of English. (Hearing, Speaking, Reading, Writing)

### 2. Attendance Requirement

If you miss 5 classes, you cannot sit the examination. (based upon our university regulations)

### 3. Participation Requirements

- (1) Be diligent. (Prepare, review and do homework)
- (2) You must use an English-Japanese dictionary.
- (3) Ask any questions at any time.
- (4) Never disturb the other students learning in this class.
- (5) I hope you will sit at the front of the classroom.

### 4. Evaluation (Select the one of the two courses as follows.)

- (1) Ability Course (the range of the exam is not limited.)
- (2) Learning attitude + Ability Course (the range is quite limited.)

If you choose (2) Learning attitude + Ability Course, it will be as follows.

$$E = \frac{(A+B)}{2} - (5V + 3W + 10X) + (Y + 2Z) \geq 60$$

$$\frac{(A+B)}{2} = \text{students' concentration and patience}$$

$$(5V + 3W + 10X) = \text{students' basic learning attitudes}$$

$$(Y + 2Z) = \text{students' positive activities in class}$$

E = the evaluation of your class

A = the marks of the former examination

B = the marks of the latter examination

V = the number of your absence, 3 L = V, L = late for class( over 10')

W = (1) the number of attendances without the 3 things

the 3 things= the textbook, an English dictionary, and a notebook

(2) the number of forgetting to do your homework(less than 30')

X = To cheat others(to tell a lie) or to cheat at an examination

Y = the number of your impressive remarks, acts of kindness, nice opinions,  
fine ideas and so forth. (so called "+1")

Z = the number of your free study (any topics you are interested in)

#### 5. Teacher's Attitude (personality)

I do hope to be reliable, friendly, communicative, attractive and intellectual.

#### <資料 2>

辞書上の「教養」の定義は何か。

(1) 大辞泉(小学館)

学問, 幅広い知識, 精神の修養などを通して得られる創造的活力や心の豊かさ,  
物事に対する理解力。

(2) 広辞苑(岩波書店)

単なる学殖・多識とは異なり, 一定の文化理想を体得し, それによって個人が身  
につけた創造的な理解力や知識。その内容は時代や民族の文化理念の変遷に応じ  
て異なる。

(3) 日本語大辞典(講談社)

ア. 人間生活を豊かにするため, 知・情・意の修養を積むこと。

イ. 人間性を開発・陶冶して精神文化を理解できる能力を身につけること。

ウ. 身についた学問・知識。

(4) 日本国語大辞典(小学館)

ア. 学問, 知識などによって養われた品位。

イ. 教育, 勉学などによって蓄えられた能力, 知識。

ウ. 文化に関する広い知識。

#### <資料 3>

「英語の学習アンケート」の分析から一部抜粋要約(担当クラス)

(調査) 平成 14 年 10 月 15 日 福井工業大学学生 159 名

<程度をあらわす段階>

5 非常に大      4 比較的大      3 普通      2 比較的小      1 非常に小

A. あなたの英語学習について

1. 英語が嫌いになってきたと思われるのはいつ頃ですか。

中学1年 21% 中学2年 38% 中学3年 17% 中学校が 全体の76%

2. 英語は将来必要になってくるから、できれば勉強したいと思いますか。

5 28% 4 39% できれば勉強したい 全体の67%

3. 英和辞書があれば、何とか英文の意味が取れるようになりたい。

5 26% 4 40% 英和辞書があれば 全体の66%

4. 簡単な英語会話ができるようにになりたい。

5 42% 4 34% 英語会話 全体の76%

5. 英語の辞書を教室に毎回持参していますか。

5 81% 4 10% 毎回英語の辞書 全体の91%

B. 大学の先生について

1. 明るくて元気のよい先生がよいですか。

5 37% 4 39% 明るくて元気 全体の76%

2. 学生のやる気(興味・関心)を引き出す先生がよいですか。

5 36% 4 41% やる気(興味・関心) 全体の77%

3. 学生の学習態度を時々注意してくれる先生がよいですか。

5 13% 4 30% 3 38% 時々注意して 全体の81%

4. 英語基礎基本をわかりやすく教えてくれる先生がよいですか。

5 43% 4 37% 英語基礎基本 全体の80%

5. 先生の発声が明瞭で、聞きやすく、わかりやすい先生がよいですか。

5 42% 4 40% 明瞭で、聞きやすく 全体の82%

6. 時にはユーモアを入れて、授業する先生はよいですか。

5 43% 4 34% 時にはユーモア 全体の77%

<資料4>

How to be a good teacher

1. How to be a better teacher

Teachers should make their lesson interesting so that students don't fall asleep.

A teacher must love his/her job. If he/she really enjoys his/her job that will make the lessons more interesting.

2. Students' impression

Students like a teacher who has his/her own personality and doesn't hide it from the students so that he/she is not only a teacher but a person as well –

and it shows through the lessons.

Students like a teacher who has lots of knowledge, not only of his subject.

A good teacher is an entertainer and they mean that in a positive sense, not a negative sense.

### 3. Characteristics of a good teacher

A good teacher is somebody who has an affinity with the students that they are teaching.

A good teacher should try and draw out the quiet ones and control the more talkative ones.

A good teacher should be able to correct people without offending them.

A good teacher is someone who helps rather than shouts.

A good teacher is someone who knows his students' names.

A good teacher learns how to manage students and how to control boisterous classes which is one of the fundamental skills of teaching.

## 7. 参考文献

- |                           |                |                       |      |
|---------------------------|----------------|-----------------------|------|
| (1) 大辞泉                   |                | 小学館                   |      |
| (2) 日本語大辞典                |                | 講談社                   |      |
| (3) 日本国語大辞典               |                | 小学館                   |      |
| (4) 広辞苑                   | 新村 出           | 岩波書店                  |      |
| (5) The Art of Teaching   | Height Gilbert | Methuen & con. London | 1959 |
| (6) 教育－創造への営み－            | 三村 均           | 創栄出版                  | 2002 |
| (7) The Book of Knowledge |                | Grolier Inc. New York | 1964 |
| (8) 英語教授法辞典               | 小川芳男           | 三省堂                   | 1964 |
| (9) 大学力を創る：FD ハンドブック      |                | 東信堂                   | 2000 |
| (10) 大学時代にまなぶべきこと         | 鷺田小弥太          | PH 研究所                | 2003 |
| (11) あたらしい教養教育をめざして       | 大学教育学会         | 東信堂                   | 2004 |
| (12) 私立大学教員の授業改善白書        | 私立大学情報教育協会     |                       | 2005 |

(平成19年3月22日受理)